

平成 20 年 10 月 1 日発行  
第 133 号

# 康寿診報

編集 / 発行 医療法人社団 康寿会 加藤内科医院

〒421-0301 静岡県榛原郡吉田町住吉 303-1

Tel : (0548)32-0701 緊急用 : 090-1758-1712 Fax : (0548)32-1280

## 「医師の論理と患者・遺族の被害者論理 安全の確立と医療訴訟」

世界一お産が安全とされる日本。我が国の妊産婦死亡数は、私の生まれた 1960 年には 2000 人を超えていた。これが、周産期医療の進歩と医療スタッフの努力、この成果により、2006 年には 54 人にまで減った。ただしこれはごく一部の先進国の水準で、妊婦にとって「お産は命懸け」のはずである。

しかし、皮肉なことに医療現場では、安全が確立したことで、死亡や障害が生じたケースで医療訴訟に発展するケースが急増している。2004 年の調べでは、医師千人当たりの訴訟の提訴件数はリスクの高いとされる診療科で高く 産科が 12.4 件、外科が 10.9 件。これに対し内科は 3.8 件である。

福島県立大野病院での「帝王切開手術時の癒着胎盤剝離に伴う産婦の出血死により、執刀医が業務上過失致死罪と医療法第 21 条に規定する異常死の届出義務違反で逮捕、勾留その後起訴された」事件。

患者・遺族側の「安全なはずなのになぜ我が身に」という被害者としての論理と、「医療には不確実性があり 100%の安全はありえない」と考える医療を行う側の理論は、なかなか噛み合わない。医師として、当然の技術を持って、当り前の処置をして、それでも起こってしまった予期せぬ事態。これに対しても、その場で可能な当然の最大限の対処をして、それでも死をまねいてしまったという結果。この結果だけを見て、後付けで、あれは予知できたこと、輸血の準備がなかったことなど、不可抗力で数万件に一例という最悪の結果をまねいた事例を標的として事件とし、司法の手が入るのは如何なものか？

今回、福島地裁での無罪判決そして被告医師が現場に復帰との報道でひとまずほっとした空気が流れる医療界であるが、医療をコスト削減の第一にあげる日本の国策が存在する一方で、医師が人間であることを忘れ、命の問題となると急に聖域とする極端な司法の目、過度に聖域視し不可抗力の事故でも、過度の権利意識から訴訟問題とする状況。委縮医療の根源であった事は真実である。今回の判決が医師が委縮し外科系をはじめとするリスクの高い緊急性を要する医療を担う医師の疲弊をきたしている現状。結果的に医療を受ける住民の不利益が現実となって現われる今、負の連鎖を断ち切り、産科医療をはじめとするリスクのある医療現場、医療界の再生につなげていくきっかけになればと考える。

「世界一の安全」を守っていくのは、国民の信頼に支えられてこそなしてきた医療そのものであり、司法の道理を欠いた介入によるものではないと痛感する。

法律家を増やし、医師を減らしてきた過去。日本はもっと米国をはじめとする行き過ぎた訴訟社会の負の部分を知るべきである。権利意識旺盛の弱肉強食の格差社会が行き着くところが何処か、貧富の差を容認すること、日本の医療・介護をはじめとする福祉が疲弊から崩壊していく過程を、ただただ傍観しているのではなく、現実起こっている問題として、米国の医療を見て、現在そして今後の日本の医療を今考えるべきである。

加藤寿夫

# 第 77 回 睦会プログラム

日時：平成 20 年 10 月 18 日(土)

場所：吉田町健康福祉センター「はあとふる」

受付：12 時 30 分～

開会：13 時 (15 時 30 分 終了予定)

「開会の言葉」睦会会長 杉山富三男さん

第一部 13:00 ~ 13:50 司会 杉山晴子

「糖尿病合併症の対策 リスク解除のために 約 15 分」

院長 加藤寿夫

「町の健康福祉について その 2 約 15 分」(仮題)

「インスリン療法と海外旅行 オーラを追いながら 約 20 分」

睦会会員 羽生高



休憩 (血糖測定) 約 15 分

第二部 14:05 ~ 15:30 司会 圓尾由美子

「インスリンのデバイスと針について 約 10 分」



(株)はいやく 吉田薬局薬局長 杉森勲さん

「糖尿病患者さんの足のケアについて 約 60 分」

焼津市立病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 八木さとみさん

「総括」静岡県糖尿病協会副会長 池田あずささん

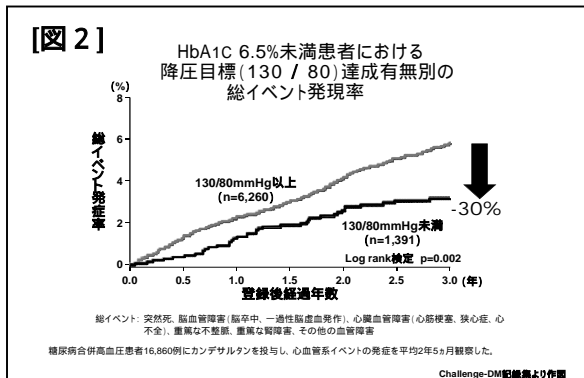
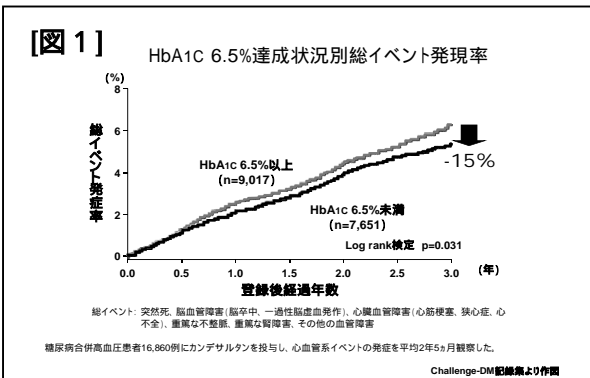
「閉会の言葉」睦会代表 久保田豊さん

参加は無料、糖尿病・メタボ等に 興味をお持ちの方は自由に参加して下さい。

につきましては、特定健康診査・保健指導、いわゆるメタボリックの健診の意義・意味するところ、町の方針について、吉田町の行政の方にお話がいただけるように、田村典彦町長に依頼中です。御期待下さい。



# Challenge-DM study について



昨年 2007 年 10 月、日本の医療現場で通院中の糖尿病合併高血圧患者の状況を示す Challenge-DM study が発表された。ARB 剤カルデサルタン使用をベースとした対象 16,860 例の解析であるが、日常診療下での JSA2004・糖尿病治療ガイド 2006-2007・動脈硬化性疾患診療ガイドライン 2002 が提示する治療目標値 血圧 130/80 未満・HbA1c 6.5%未満・TC (総コレステロール)180 未満、TG (中性脂肪)150 未満の達成率に対して、脳・心血管系のイベントの発症の関連性について検討された。

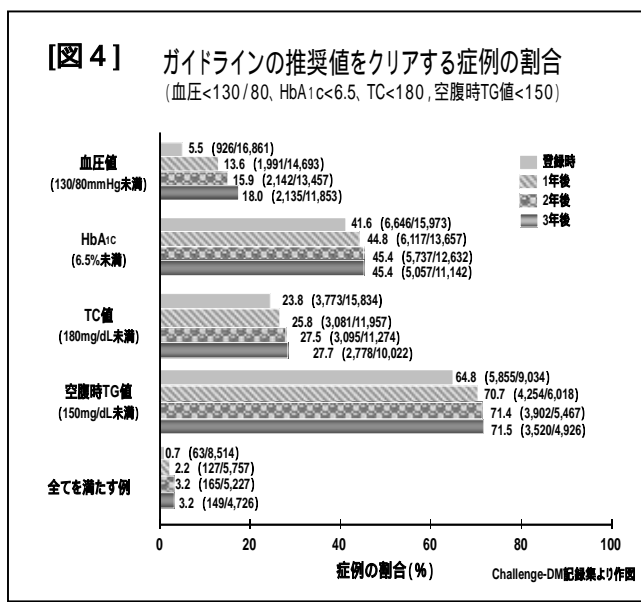
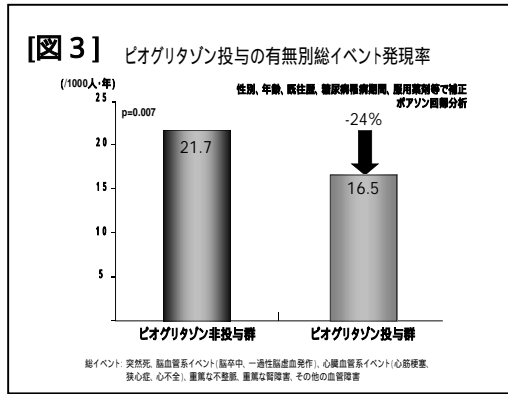
糖尿病治療ガイド 2006-2007 では、HbA1c < 6.5%を血糖コントロール「良」と評価し、これを治療目標値としていたが、これが達成されていた割合は 45%であった。

そしてこの HbA1c < 6.5%にコントロールすることで、脳・心血管系のイベント等、イベント発現リスクが有意に抑制されること、総イベントとして 15%程度発症が抑えられることが証明された [図 1]。

さらに、HbA1c < 6.5%であって、血圧が 130/80 未満にコントロールすることで、なんと 30%まで発症リスクを抑制されるという結果を得た[図 2]。

また、チアゾリジン薬[=TZD]であるピオグリタゾン(商品名:アクトス)が投与された群で、イベントリスクが抑制されるという結果を得た[図 3]。

そして、憂慮しなくてはならない点は、横断的な調査ですべての治療目標値を達成できているのは、わずかに 3%程度に過ぎないという状況である[図 4]。



## 《勉強会のご案内》

通常の勉強会は原則第 3 土曜日 13:00 から開催です。

11 月 15 日(土)	運動療法について
12 月 13 日(土)	インソール療法について

ビデオ・DVD 学習会は、別紙予定表にて診療日の午前・午後開催しております。個人の希望にも随時応じております。希望される方は、職員まで申し付け下さい。

## 《診療案内》

診療時間	月	火	水	木	金	土
8 時 ~ 12 時						
15 時 ~ 18 時						

休診日:日曜・祝日 木・土曜の午後 月末最終日の午後

受付は 初診は 17:30 まで 再診は 17:45 までです。

## 《インフルエンザワクチン 予防接種のお知らせ》

今年度も 10 月よりインフルエンザの予防接種を実施します。  
小学生まで(12 歳以下)の子供さんは 原則 2 回接種です。

2 回接種の費用 ¥4,000 (¥2,500 + ¥1,500) 1 回目にまとめて徴収します。

大人の方(中学生以上)は、

毎年接種されている方であれば 1 回のみの接種でまずまずの効果が期待でき、10 月中旬 ~ 11 月末の接種を推奨します。今年初めての方で数年来インフルエンザに罹患していない方の場合、2 回接種をお勧めしますが、1 回のみ接種でもある程度の効果は期待できます。

一般の方 ¥3,000、通院中・紹介の(加付のある)方 ¥2,500、2 回目の接種 ¥2,000  
2 回目の接種をする時期

- ・1 回目が 11 月中旬までの場合は 28 日程度あけて 2 回目を接種。
- ・1 回目が 12 月以降の場合は 14 日程度あけて 2 回目を接種。

65 歳以上の方は、町・市の補助があり、各町・市の手続きの上、接種していただくと助成の対象となります。

島田市の方は 直接来院(本人負担 ¥1,050)。吉田町・牧之原市・御前崎市の方は 書類[予診票・受診券・(未記入の)接種済証等]を持参の上来院(本人負担 ¥1,500)となります。



「受験生割引」今年度も実施します。

「受験生であること」を告げて下さい。1 回目 ¥2,300

2 回目の接種 ¥1,800 とさせていただきます。

## 《70 歳以上 肺炎球菌ワクチン予防接種のお知らせ》

今年度も、吉田町の助成は行なわれています。全国唯一 接種代金 ¥8,282 の全額負担。個人負担無しにて 実施中です。

保健センターにて助成券を受け取った上で受診して下さい。



《臨時休診のお知らせ》 お薬を切らさないようにお気をつけ下さい。

10/ 31(金), 11/ 1(土)は 休診となります。

臨時休診は数ヶ月前にお知らせします。確認の上で 受診をお願いします。